

Gibson[®] BRANDS

Gibson[★]
CUSTOM

Gibson[®]

Epiphone[®]

OWNER's MANUAL

この度は、ギブソン・ブランド製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

本製品を末永くご愛用いただくために、このオーナーズ・マニュアルをよくお読みください。

はじめにお読みください

注意 使用上のご注意

誤った使用方法により、事故・破損につながる可能性があります。

事故・破損を未然に防ぐためにも、下記の注意事項を必ずお守りください。

●楽器の取扱い

楽器をぶついたり、落としたときなどの強い衝撃は、楽器に損傷を与えるとともに、ケガの原因となる場合がございますのでご注意ください。(特に立って演奏する際、ストラップピンとストラップがしっかりと固定されているか必ずご確認ください。)

●弦の取扱い

弦の先端は大変鋭く、ケガの原因となります場合があります。決して顔に近づけたり、人に向けたりしないでください。(弦を交換した際は、余分な弦をストリング・ポスト付近で短く切り、先端を内側に折り曲げるなどの処置をお勧めします。)

●乾電池の取扱い (一部モデルのみ)

放電の可能性があるため、乾電池は定期的に交換してください。また長期間使用しない場合は、液漏れの原因となりますので、必ず乾電池を取り外すようにしてください。乾電池の + と - を逆に使用しないでください。使用済みの乾電池は決められた場所に適切に処理してください。

保管と運搬

ファクトリー内は、平均気温 22 度、湿度 40%~50% が保たれています。製品を保管する際には、同様のコンディションを保ち、この気温及び湿度基準から前後 20%以上の変化は避けてください。気温及び湿度の変化は、比較的短い期間で悪い影響をもたらします。

アコースティックギターの場合、高温多湿な保管環境下ではボディ表板の隆起と変形が起こり、低温低湿度の環境下ではボディ表板の沈み込む現象や乾燥による木部割れが起こります。どちらの場合においても、ボディの状態変化に加えてネックの反りが発生し、適正なサウンド・演奏性（弦高値）が保たれていない状態となり、本来の響きが得られない状況となります。湿度の高い季節には保管するハードケース内に除湿剤を入れたり、乾燥期には楽器用の保湿剤を活用し適正な湿度を保持するなどし、保管環境に十分ご注意ください。

長期の保管の場合は、弦をやや緩めて保管してください。弦を張らない状態での保管はお勧めしません。

ギターをお使いにならないときは、専用ハードケースもしくはソフトケースに保管しておくことをお勧めします。専用ケースへ保管することにより、不慮の事故、気候や使用環境の急激な変化によるギター損傷のリスクを低減します。ギターをケースにしまう際には、ケースの中に何も無いことをご確認ください。

ギターをケースに入れて持ち運ぶときは、取っ手の金具に緩みがないか、すべての留め金がきちんと締まっているかどうかを確認し、ケースを持つ際はフタ側を体の方に向けてるようにします。これにより、ケースが不意に開いたとしても、体がフタを押さえる形になり、楽器が地面に落ちて損傷するのを防ぐことができます。ソフトケースに入れて持ち運ぶときは、ストラップにほつれがないか、チャックが閉まっているかを必ず確認してください。

自動車のトランクに長時間保管することは避け、また、ケースの上には何も置かないようにしてください。ケースを水や雪にさらすことは極力避け、万が一濡れてしまった場合は、すぐに柔らかいクロスなどで水分を拭きとります。ケース内部まで濡れてしまった場合、本体を取り出し、ケースを陰干しして、乾いたことを確認してからご使用ください。

飛行機、電車、バスなど公共の乗物で移動する場合は、弦を緩めてください。これにより、ネックにかかる弦のテンションを和らげ、振動などによるダメージを軽減できます。

ケースを落とす、または倒すなどの強い衝撃は、フィニッシュ、ヘッドストック、ボディ・サイド、ボディ・バックに損傷を与えます。ヘッドストック折れの多くは、ギターを倒した際に起こりますが、ケースごと倒した場合にも発生しますので、ケースを立てた状態で置かないでください。ネック部分の損傷は保証対象外となりますので、十分にご注意ください。

ギターの構造：



チューニング：

ギブソンでは次の方法を推奨しております。

ギターは通常 A-440 Hz を基準にチューニングします。

下の図は各弦の開放弦のノートを示したものです。

ギター						ベース			
6弦	5弦	4弦	3弦	2弦	1弦	4弦	3弦	2弦	1弦
E	A	D	G	B	E	E	A	D	G

まず外側の弦（ギター：1弦と6弦、ベース：1弦と4弦）から音を合わせて、順に内側の各弦をチューニングしていきます。これにより、ブリッジにかかる弦の力が左右均等になり、狂いの少ない素早いチューニングが可能になります。

チューニングの狂いを少なくするために、弦をよく伸ばしてください。

オクターブ調整：

新しい弦を張ってチューニングを合わせた状態から始めます。

同じ弦の開放弦と12フレットを押さえた時のオクターブの音程が合っているかを、チューナーを見ながら調整します。

特に弦のゲージ、弦高を変更した場合は、オクターブ・チューニングを行ってください。

開放弦より12フレットの音程が高い場合（オクターブが高い）は、ブリッジ・サドルをテイルピース側に移動させます。

開放弦より12フレットの音程が低い場合（オクターブが低い）は、ブリッジ・サドルをピックアップ側に移動させます。

ブリッジ・サドルを移動させた場合、開放弦のチューニングも変わるため、チューニングを合わせてもう一度12フレットの音程を確認します。

同じ弦の開放弦と、12フレットの音程が合うまで、この調整をくりかえします。

コントロール・ノブとスイッチ：



2つのピックアップが搭載されているモデルの標準的なコントロール配置は、4つのコントロール・ノブ、ピックアップ・セレクター・スイッチから構成されており、これらの組み合わせにより多彩なサウンドを作ることができます。

ワンピックアップモデルには、ボリュームとトーンの2つのコントロール・ノブのみで、ピックアップ・セレクターはありません。

ピックアップ・セレクター・スイッチ：

このスイッチで、3パターンのピックアップポジションをセレクトできます。

ボディを正面から見て左向きのポジションは、ネック側のリズム・ピックアップが出力され、右向きのポジションでは、トレブル・ピックアップが出力されます。

真ん中のポジションでは、双方のピックアップがミックスされたサウンドを出力します。ただし片方のピックアップボリュームが0の場合音は出力されません。

各ピックアップのボリュームとトーン・コントロールは、このセレクターにより選択された時のみオンになります。3つのピックアップが搭載されたモデルでは、順に、リズム・ピックアップのみ / ミドルとトレブル・ピックアップ / トレブル・ピックアップのみの組合せとなります。

※アーティストモデルを含む、一部のモデルはカスタム配線を採用しており、動作は上記の限りではありません。

ボリューム・コントロール：

フィンガーボード寄りの2つのノブで、各ピックアップの音量を調整します。

トーン・コントロール：

フィンガーボードから離れた方の2つのノブは、トーン・コントロールです。

このノブを0の目盛りの方へ反時計回りに回すと、徐々に高域成分がカットされ、よりダークなサウンドに変化します。時計回りに回しきった10の目盛りの位置では最もブライトなトーンが出力されます。

トラスロッドの調整：

すべてのギター・ベースには、アジャスタブル・トラスロッド・システムが採用されています（クラシック・ギターを除く）。

トラスロッドとは、ネックの反りを防ぐために、ネックの中に仕込まれた金属棒のことです。

ネックが反っている場合やゲージの異なる弦を使用する場合は、ヘッドストックにあるトラスロッド・カバーを外し、

専用のレンチ（Gibson は 5/16 インチのボックスレンチ、Epiphone・Kramer は 4mm の六角レンチ）を使いトラスロット・ナットを回し、

順反り→時計回りや、逆反り→反時計回りの調整を施します。

注意：トラスロッド調整は、本来プロのリペアマンが行う作業です。

トラスロッドが時計回りに動かなくなった場合、それ以上無理に回すとトラスロッド、またはネックが破損することもあります。ご注意ください。

弦高の調整：

弦高とは、弦とフレットとの間隔で、弦をフレットに押さえつけるまでの距離の事です。

通常、12 フレットの頂点と弦の下面を 1/64 インチ単位で計測しながら調整します。

ファクトリー出荷時には弦高調整を施していますので、通常は調整する必要はありません。

エレクトリックギターの場合、ブリッジ両端のサムナットでブリッジの高さ（弦高）をやや低くできますが、振動する弦がフレットに当たって鳴る「ビビリ」や「フレット・ノイズ」の原因となります。

弦高を基準値より低く設定したことによって発生する「ビビリ」や「フレット・ノイズ」は、楽器の欠陥ではありません。

ギブソンが定める標準アクション (12フレット上の弦高)		1弦 (単位：インチ)	6弦 (単位：インチ)	1弦 (単位：ミリ)	6弦 (単位：ミリ)
Gibson	エレクトリック・ギター	3/64"	5/64"	1.19mm	1.98mm
	アコースティック・ギター	4/64"	6/64"	1.59mm	2.38mm
	ベース	4/64"	6/64"	1.59mm	2.38mm
Epiphone	エレクトリック・ギター	4/64"	6/64"	1.59mm	2.38mm
	アコースティック・ギター	5/64"	7/64"	1.98mm	2.78mm
	ベース	5/64"	7/64"	1.98mm	2.78mm
Kramer	エレクトリック・ギター	4/64"	6/64"	1.59mm	2.38mm
	ベース	5/64"	7/64"	1.98mm	2.78mm
Steinberger	エレクトリック・ギター	4/64"	6/64"	1.59mm	2.38mm
	ベース	5/64"	7/64"	1.98mm	2.78mm

注意：アコースティック ギターの弦高調整は、本来プロのリペアマンが行う作業です。弦のゲージを変えた際や気候の変化、管理されている温度・湿度環境により演奏性が変化したときは、トラスロッド、ナット、ブリッジの調整が必要になります。

ピックアップの調整：

ピックアップは、ファクトリー出荷時に基準値に調整されていますが、各ピックアップ両端にある2つのマウント スクリューでピックアップ全体の高さを調整できます。

各弦の出力調整は、マイナスインドロバーを使い、アジャスタブル ポールピースを回して調整することができます。



過剰にピックアップを弦に近くした場合、弦がピックアップのマグネットに引き寄せられて「ビビリ」が発生したり、トーンやイントネーション、サステインを悪化させる原因となります。

弦の張り方

ブリッジ側（エレクトリック ギター）：

テイルピースに弦を通し、ペグのストリング・ポストに巻き付けていきます。この時、ブリッジ駒の溝に弦が載っているか確認してください。テイルピースやブリッジを落とさないように注意してください。



ヘッドストック側（エレクトリック ギター）：

ストリング・ポストに弦を巻き付ける時は、ブリッジ側で固定した弦のもう片方を所定のストリング・ポストまで引き上げます。そして弦(A)をストリング ポストの穴(B)に通して(C)まで持っていきます。

次にストリング・ポストの上部(D)のところで回し、(B)のところにある(A)の下をくぐらせるようにして、再び(D)の周りを回します。



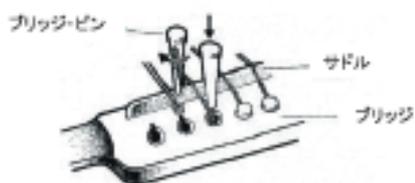
こうしておけば、チューニング・キーを回すことにより、弦は自らストリング・ポストに強く固定されるようになり、スリップによる弦の緩みなどのトラブルを避けられます。

ブリッジ側（アコースティックギター）：

弦のボールエンドをブリッジにあるスロットに差し込み、ブリッジピンを穴に押し込んでください。

弦が外れてしまわないようにブリッジピンを押さえながら弦を引き、弦がスロットにはまっているかをご確認ください。

この時、ブリッジピンにある溝は弦の方に向けるように差し込みます。



ヘッドストック側（アコースティックギター）：

ストリング・ポストに弦を巻き付ける時は、ブリッジ側で固定した弦のもう片方を所定のストリング・ポストまで引き上げます。

そして弦(A)をストリング・ポストの穴(B)に通して(C)まで持っていきます。

次にストリングポストの上部(D)のところで回し、(B)のところにある(A)の下をくぐらせるようにして、再び(D)の周りを回します。



* 弦を張り終わったら、余った弦をストリング・ポストの付近で短く切り、先端を内側に折り曲げるなどして安全を図ってください。

* 弦は定期的に交換することにより、より良いトーンと演奏性を保つことができます。汗や汚れが付着したままの状態では、酸化や錆が発生した弦は、トーンに悪影響を及ぼし、正確なピッチを保てません。

正しく張られた新しい弦は、楽器本来のトーンを引き出す重要な要素であることを忘れず、定期的に交換するように心掛けてください。

注意：弦の先端は尖っており、非常に危険です。取り付ける際は目に入らないように十分ご注意ください。

フィニッシュのメンテナンス（ラッカー塗装の製品）：

ギブソン製品は、ニトロセルローズ・ラッカーを何層にもコーティングした上で、クラフツマンの手仕上げにより磨き上げています。

ニトロセルローズ・ラッカーは、時間の経過による色合いの変化と独特の味わいをお楽しみいただけます。

化学繊維、レザー・ストラップ、ギター・スタンドに使用されているゴムなどには、ニトロセルローズ・ラッカーの変色や変質などの原因となる素材がありません。

フィニッシュの美しさを保つため、次の事項をお守りください。

- 化学繊維の布で磨かないでください。
- 使用後はストラップを外してください。
- ギター・スタンドのゴムをコットンなどの柔らかい布で覆うなどして、直接楽器に触れないようにしてください。
- 汗はハードウェアとフィニッシュに悪影響を与えます。楽器の使用後は、天然素材の柔らかい布でボディとハードウェアを磨いてから保管してください。フィニッシュの美しさをより長く保つためには、ギブソン製のポリッシュで磨くことをお勧めします。フィニッシュ・チェックが入っているギターにはポリッシュは使用せず乾拭きで磨いてください。
- クリップチューナーのゴム取り付け部分を布で覆うなどして直接楽器に触れさせないでください。

* ラッカー塗装は時間とともに収縮します。これにより塗膜上の平面的な仕上がりが変化しますが、ラッカー塗装特有のものであり、異常ではありません。

気温の変化（ラッカーのフィニッシュ・チェック）

急激な温度や湿度の変化により、“フィニッシュ・チェック”と呼ばれる細かなヒビがフィニッシュに入ることがあります。

これは木材とラッカーの体積膨張率が異なるために起こります。冬場に外気で冷えた状態のギターを、いきなり室内暖房の暖かい空気に触れさせた場合に容易に生じる現象です。

これを避けるには、冬場に屋外から屋内に持ち込んだ時は、いきなりケースのフタを全開にはせず、時間をおいてから少しずつ、ゆっくり開けることをお勧めします。

フィニッシュの表面に曇りが広がる場合は、すぐにフタを閉じて、全体が室内の温度になじむのを待ちます。

